

令和2年度 第1回 郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会 議事録

- 開催日時: 令和3年3月15日(月) 17:00~18:10
- 開催場所: 仙台市役所上杉分庁舎 12階第1会議室
(委員の皆さんは、Web会議システムにて、リモート参加)
- 参加者:
 - (委員) 山形大学准教授 荒木志伸, 東北芸術工科大学教授 北野博司,
筑波大学教授 黒田乃生, 東北学院大学教授 永田英明,
国立歴史民俗博物館教授 三上喜孝, 山形県立米沢女子短期大学教授 吉田勸
※敬称略
 - (事務局) 生涯学習部長 筒井幸子, 文化財課長 長島栄一, 文化財課整備活用係長 工藤慶次郎,
文化財課主査 元山祐一, 文化財課主事 庄子裕美
 - (報道機関) 0名
 - (傍聴人) 0名
- 議事の概要
 - 1 開会
 - 2 生涯学習部長挨拶
 - 3 委嘱状交付
 - ・Web会議のため、委嘱状は各委員に予め郵送し、当日は課長からお名前を読み上げることで交付に代えた。
 - 4 議事
 - ※会議成立の確認
 - ・要綱第6条第2項に基づき、委員7名中6名参加で、過半数が参加しているため、本会議は成立していることを確認した。
 - (1) 委員長・副委員長互選
 - ・要綱第5条に基づき、委員の互選によって決定した。
 - ・吉田委員から、次のような推薦があった。
 - 委員長: 永田英明委員(郡山遺跡等に一番近くにいることなどが理由)
 - 副委員長: 渡部育子委員(前委員会からの経緯を知っていることなどが理由)
 - ・全会一致で決定。

※議事録署名人について

- ・永田委員長が、荒木委員を指名した。荒木委員も了解。

(2) これまでの経緯について

- 事務局** ・資料3の3か所について訂正。資料4の「郡山遺跡第306次調査」部分の差し替え。
- ・(資料3を使って、概要を説明) これまで、東日本大震災に伴う復興にかかわる調査に追われてきたが、令和元年度にやっと国庫補助による範囲確認調査を郡山遺跡で再開した。また陸奥国分寺跡についても、令和3年度から範囲確認調査を再開できる見込みとなり、本委員会の再結成となった。
- 委員長** ・何か質問等はあるか。なければ令和2年度の調査内容について、事務局から説明をお願いします。

(3) 令和2年度の調査内容について

- 事務局** ・(資料4を使って、概要を説明) 305次調査では、Ⅱ期官衙の材木列とⅠ期官衙の掘立柱建物跡の一部を検出している。昨年度この東側で実施した調査結果との接続については、現在整理中である。306次調査では、平面図を見てもらうと分かるように、何もなかった。南門を入ってすぐの右寄りの空間で、近接する建物等もなく、空閑地になっていた、ということである。
- 北野委員** ・305次調査で、Ⅱ期官衙の材木列が2列平行している。以前も材木列が出てきたということだが、その時も2列平行して存在していたのか。この2列の性格はどういうものなのか。
- 事務局** ・この調査区の北側と南側で、延長線上を掘っており、材木列については、2時期のものが平行して見つかっている。北側では、溝を伴っているものもあった。従って基本的にこの材木列は、ずっと続いているものと見ている。この東側は、あまり掘れていないので断定はできないが、2時期の材木列は、時期を違えながらⅠ期官衙の東辺になっていた可能性が高いと見ている。
- 北野委員** ・作り替えをしている、ということで評価したということ、承知した。
- ・今後もリモート会議が続く際は、是非、画面共有でカラー画像を見せてもらったほうが臨場感がある。どれくらいの規模かということも分かりづらいので、断面図についても検討を。
- 事務局** ・承知した。今後はその部分をフォローしていきたい。
- 三上委員** ・306次について、空閑地になっているとのこと、これまでの調査の209次も空閑地があったとのことだが、位置関係はどうなっているか。
- 事務局** ・先生ご指摘の209次は、内部のような表記となっているが、官衙の外側の部分である。306次の部分は、道路敷を想定して調査したが、何も検出できなかった。何もなことが分かった、ということがある意味成果である。
- 荒木委員** ・郡山遺跡とは年代も異なるが、城輪柵等でも南門の内側に目隠し堀があるような場合がある。今回の306次調査地点は、南門からどの程度離れた地区か。

事務局 ・南門から4～5mの範囲で発掘した。

委員長 ・ほかに質問がなければ、令和3年度の調査予定について、事務局から説明をお願いします。

(4) 令和3年度の調査予定について

事務局 ・(資料5を使って説明) 郡山遺跡の調査区については、中枢部の東側と折り返して西側を調査して、建物が果たして対称にあるのかどうか確認したい、という趣旨で設定した。これまで郡山遺跡の中心部については、建物が対称になっているという前提で報告してきたが、実際東側では北半分の建物列だけとか、西側では南半分の建物列だけとかで、双方が平行に並ぶということを明瞭にはつかめていない。その課題を一步進めて明らかにしたい、という趣旨でこの2か所を設定した。なお、個人住宅については、これまでどおりピンポイントでの調査を重ねていく。陸奥国分寺跡については、北西部で2か所調査する。しばらく前までの調査報告では、242m四方、800尺四方の築地が巡っていると推定されており、歴博や仙台市博物館の模型などはその推定でできていると思う。ところが、北辺部において、推定で通過した部分に築地塀が東西方向に見つからなかった。またそこに掘立柱建物跡が更に見ついているという状況なので、242m四方ではなくて、南北に長いのではないかという想定で、明瞭な北辺を見つけたいという趣旨で調査区を設定した。これは、国分寺跡北半部の第2次整備につながるものと考えている。北辺部を明らかにするという、大変重要な調査である。

委員長 ・郡山、国分寺ともに重要な調査になるのではないかと思うが、それぞれについて、何か質問等はあるか。

北野委員 ・国分寺の調査だが、北辺で築地がなく掘立柱があったという調査区が、この図面でいうと、どこになるのか。また来年度予定の調査区①②、これは直接は北辺を確定する位置ではないので、その辺の事情が分かればご指摘いただきたい。

事務局 ・築地がなく掘立柱があったという調査地点については、この図面には入れなかった。申し訳なかった。これは、きちっとした調査区を設定したのではなくて、そこにあった建物の解体時に確認したことだった。なお、場所は東半部で27-2とか27-5という調査区が南北に配置されているが、これのほぼ真ん中辺で、南北に降りてくる市道のちょうど西側の位置に当たっている。そこで、築地がないことを確認して、掘立柱を見つけている。従って、もうちょっと北に延びるだろうと見ている。なお27-と26-の調査区も北辺を探した調査だったが、残念ながら築地等は見つけることができなかった。住宅地だったので削平も受けている可能性もあると思うが、何とか残りの良いところで見つけたい。①と②の調査区については、この南側まで恐らく築地の寄せ柱と思われる柱穴列を見つけているので、その柱穴列を北に追っていけば、どこかで曲がった、あるいはどこからか見えなくなった、という形で、ずばり北辺の東西方向でなくても、北辺の位置の推定につながるものと考え、検出している西側の柱列の延長線上に、今回の調査区を設定した、という次第である。

北野委員 ・趣旨は分かった。推定される800尺四方の推定線なども入れておいてもらうと今の説明も分かりやすかった。

事務局 ・作図については、今後気を付ける。

委員長 ・他にないか。

荒木委員 ・郡山遺跡について、遺構の残り具合など、ある程度の予測はつくか。

事務局 ・郡山遺跡のこの2か所については、史跡指定以前は、農家の畑部分なので、大きな削平は受けていないと思う。これまでの調査だと、畑の天地返しによってだいぶ削られてはいるが、掘立柱建物跡とか石組溝といった遺構が残っていた所なので、官衙の主要な遺構があれば残っているだろう。周辺の個人住宅から見れば、まだ安定して土層が残っているだろうと期待をしている。

荒木委員 ・分かった。現地に行くのを楽しみにしている。

委員長 ・その他、どうか。吉田先生、黒田先生、いかがか。

吉田委員 ・郡山遺跡の正殿相当の左右対称の部分だが、調査地としては中軸線から同じ距離の辺りをトレンチとして開けるという理解でよいか。また国分寺の方で、27-2、27-3、27-4、27-5といった辺りで、どんな遺構がこれまで見られているのか。

事務局 ・郡山遺跡だが、吉田委員ご指摘のとおりである。期待したいところである。国分寺の27・28の調査区だが、以前掘ったときに溝跡と竪穴住居だった。寺院を構成しているような建物には、残念ながら当たっていない。また溝については、東西方向の溝が出ていたので、これが北辺かなと考えた時期もあった。しかし残念ながら南辺・東辺・西辺は築地だろうと思われる遺構を検出しているので、北辺だけ溝というのは非常に考えにくいので、その部分については、改めて今回探してみるべきだろうという立場である。

吉田委員 ・よく分かった。

事務局 ・こちらからも質問させていただきたい。黒田先生には、国分寺南半部の第1次整備のときの委員をしていただいた。今後、どうしても国分寺跡も含めた第2次整備につなげていきたいのだが、整備をしていく上で、こういう遺構だけは見つけてくださいねというようなご注文をいただければ、我々にとって大変力強い。

黒田委員 ・考古が専門ではないので分からないが、出てきた段階で、どういうふうに整備していかうかというのには、何かを言えると思う。今日のところは特にない。

事務局 ・ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひしたい。

黒田委員 ・以前の委員会がすごくアットホームな、手作り感のあるよい委員会だったことが印象に残っているので、今回も楽しみにしている。

委員長 ・これからの成果を見ながら、皆さんと共有しながら考えていく、ということになる。
・その他、委員の先生方から、ご自由にご発言を。

(5) その他

事務局 ・本日も欠席の渡部先生から、課長宛てにお電話で御意見をいただいていたので、報告する。資料3・4・5について熟読の上、内容について了解した、とのこと。こうした状況の中で活用関係について、よくされてきました、ということ。以上2点の御意見をいただいた。

- ・来年度は、できれば現地で調査指導をお願いしたい。郡山と国分寺のどちらかになるかも知れないが、現地でお会いできるよう努めるので、よろしくお願いしたい。
- ・来年度の委員会の日程は、決まり次第ご連絡する。
- ・初めてとはいえ Web 会議の開始が遅れたこと、資料も訂正箇所等多数あったこと、改めてお詫びする。今後、十分に気を付けたい。

委員長

- ・皆さんで集まってお話できる日が来ることを望んでいる。
- ・先生方から特にご発言がなければ、本日の郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会、これで終了とするが、よろしいか。

※一同、同意。

委員長

- ・どうもありがとうございました。

事務局

- ・先生方、ありがとうございました。また、よろしくお願いいたします。

以上